

研究主題 「知的障害のある生徒のよりよい働き方と生活について考える」

I 団体の概要

平成11・12年度に文部科学省から東京都に「盲・ろう・養護学校就業促進に関する調査研究」の依頼があり、事務局を都立青鳥養護学校(現都立青鳥特別支援学校)に置き、調査研究を行った経緯から、主に知的障害のある生徒の就業促進や定着支援等について都内29校の高等部設置校進路指導担当教員が調査・研究を行っています。

II 研究目的

- ・都内知的障害特別支援学校高等部卒業生の進路先と定着状況を把握し、よりよい進路指導を実践する。
- ・知的障害特別支援学校高等部在籍生徒や卒業生のよりよい働き方と生活について学ぶ。

III 研究方法

- ・月1回程度の事務局会を行い、年間や次年度の研究内容を検討し、実施する。
- ・研修会(年間3回)や教職員研修センターとの連携研修(年間2回)を行い、先駆的事例や実践内容を知り、各校の進路指導に生かす。

IV 研究内容

- ・知的障害特別支援学校卒業生の進路先と1年後と3年後の定着状況調査を行う。(毎年実施)
- ・研修会(年間3回)、教職員研修センターとの連携研修(年間2回)を実施する。
- ・知的障害特別支援学校卒業生の企業就労状況や働き方についてアンケート調査を行う。

V 研究の成果と課題

・進路先調査では、都立知的障害特別支援学校高等部28校からアンケートを集約しました。調査の結果、令和5年度卒業生の46.7%が企業就労、令和4年度卒業生の95.3%が1年経っても働き続けていることが分かりました。さらに、卒業後3年の令和2年度卒業生に調査を行ったところ、企業就労813人のうち89.3%が継続して働き続けており、10.7%に当たる87人が退職していることが分かりました。

・研修会では、東京労働局、中学校特別支援学級設置学校長及び学級担任並びに障害者雇用をしている企業及び障害のある社員を研修講師として迎え、障害者の雇用状況や制度改正など特別支援学級卒業後の進路や定着支援の在り方について学びました。



(第2回研修会の様子)

・教職員研修センターとの連携研修では、小・中・高・特、すべての校種を対象として開催し、当日は約230名の教員が参加しました。大学教授、障害者雇用をしている企業の社長及び障害のある当事者を研修講師として迎え、キャリア教育や就労状況について学びました。

VI 今後の活動予定

- ・卒業生の就労生活についての調査を行います。
- ・令和7年2月6日に障害のある当事者を招き「企業で働き続けるために必要なこと」等について第3回研修を行います。

<令和6年度連絡先>

団体名		東京都知的障害特別支援学校就業促進研究協議会
代表者	所属	東京都立青鳥特別支援学校
	職氏名	統括校長 高橋 馨
	連絡先	03-3424-2525
事務局	所属	東京都立青鳥特別支援学校
	職氏名	主任教諭 神立 佳明
	連絡先	03-3424-2525